

# 平成19年度第2回「安全・安心・すこやか部会」摘録

開催日時 平成 19 年 5 月 16 日（木） 午後 6 時 00～8 時 00 分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会 A 委員：末兼卓副部長、青山一、荒井康男、小林豊、綱川幸子、  
萩原保夫、葉山直次

傍聴者 : 1 名

事務局（総務企画課）：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員、

次第

## 1. 議題

1. 「健康で生きがいをもてる地域づくり」について

(1) 自主活動グループ視察調査について

(2) 区民会議（全体会）への部会検討状況の報告について

(3) 部会報告の分担決め

2. その他

## 開 会

本会議の情報公開に関する委員の了承。

次第、配布資料の確認。

## 仲川副区長あいさつ

4 月に異動してきました、仲川です。18 年度の報告書を読んでいます。提言頂いた、地域防災活動。行政として皆さんの意見を聞きながら、できるところから進めていこうと思っています。

## 前回の部会の検討内容確認

（末兼副部長）

前回までの修正・補足等あるか。

修正については事務局へ連絡。

（綱川委員）

各地区の会の構成データということが P4 に出ていますが、4 月現在の人数が変わっている。南河原地区が 15 クラブになった。東地区が 18 クラブに。西地区が 25、日吉地区が 23 の 81 クラブに変わった。

今、一人暮らしで元気な方とか、一人暮らしで寝たきりの方、同居で寝たきりの方、虚弱な方、男女別で、幸区には今どれくらいの方がいるのか調べている所です。人数がはっきりしたら、報告する。

## 区民会議（全体会）への部会検討状況の報告について

（末兼副部会長）

部会の内容を整理して報告できるようにする必要があるので、これまでの検討状況を提示して、全体会に報告する内容等、全体会議で議論してもらうことを決める。それを報告する人を決めたい。

前回の部会で視察というテーマが出された。視察資料を事務局から説明してもらい、参加者から報告してもらう。

### （１）自主活動グループ視察調査について

事務局から資料説明

（事務局）

資料１に地域の健康づくり活動の団体、４団体をまとめています。Ａが河原町ふれあい体操で、Ｂが笑顔さわやか会。Ｃがかぼな会、Ｄが、日吉あゆみの会。Ａの河原町ふれあい体操の会には、５月９日にＢの笑顔さわやか会には、５月８日に何人かの委員が視察を行った。Ｃのかぼな会とＤの日吉あゆみの会には、郵便でアンケート調査を行った。設立年をきいたところ、河原町ふれあい体操の会は、１９年度から立ち上がった若い団体で、ＢとＣにつきましては、６～７年活動を行ってきた団体。Ｄにつきましては、１０年を迎えた、かなり安定的な活動をしている団体。

Ｃの団体は、料理グループで、保健福祉センターを中心とした基本的に男性で構成されたグループ。役員さんは、女性が３～４人で構成している。

年齢は、５０代～７０代。会員の方は、６０～７０代の方で構成されていて、女性会員が多い。Ｂの会は、転倒予防の指導で、ボランティアが参加している。

会の収入と支出は、支出相当額（出ていくお金）を収入にあてている。会の収入状況は、やや不足している。

活動の場所は、Ｄの会は、ウォーキングなので広範囲になるが、その他の団体は屋内の範囲内。

活動内容も月１～４回。Ｂの会やＤの会などは、本来の活動以外に講座を開いたり、研究会等、幅広く健康づくりに取り組んでいる。

活動上の課題を各団体に聞いたところ、役員のなり手がいないとか、男性会員が少ないということ。活動への指導者や助言者がいないことや活動への支援者（ボランティア）が少ない。活動を立ち上げたばかりの団体では、PRや宣伝などのノウハウが不足している。

今後、会員を増やしていくことに力をいれたいとか、若い会員を増やしたいとかボランティアを増やしたい。ウォーキングの会では、経験豊富な会員を増やして、会員の中から独立して活動

できる人が出るのが望ましい。「寝たきりにならない」を目的に地域への浸透を図りたいというような意見を頂いた。

(末兼副部長)

次にA・B会を視察した委員からの報告をお願いします。

(萩原委員)

河原町の中にある健康体操グループを視察しました。通常20~30名ぐらいただと聞いていたが、この日は40名ぐらいいました。音楽に合わせてながら体操をする。終わった後の感想の一部ですが、指導者の方が若い方なので運動量がある。一曲体操を終えると、70歳以上の参加者もいるので一緒に体操するのはきついという声もあった。この辺は、今後グループの中で話し合っていくと思うが、我々が何かの際に助言できるのなら参加した保健師さんに一つの動作をもう少しゆっくり時間をかけてはどうかと話したい。

(綱川委員)

「河原町ふれあい体操の会」を見せてもらいましたが、だいぶ人数が多くて、一生懸命していましたが、動きが少しきついなという感じがした。皆さん一生懸命にやられていて良い印象を受けた。

私達の老人クラブでは、いきいきクラブ体操という音楽がどこから聞こえてきてもできるようにやっていますが、「笑顔さわやか会」のように寝てやる体操もすごく良いと思いました。指導する方が落ち着いてゆっくりされるので、充分伸ばすところは伸ばせたりできる。このやり方を取り入れたいので、指導してくれるリーダーの方に集まってもらって、練習して広まれば良いと思う。体操が終わってから、歌を歌ったり、聞きたいことがあれば何でも聞いて下さいとか、昔話の一節もしてくれるような楽しい会でした。

(末兼副部長)

河原町の方は、ボランティアが4~5名来られてやっていた。笑顔さわやか会の方は、地元に住られる方が世話としてやられていた。

時間的に短いので、皆さん集まって1時間半ぐらいで帰ってしまうので、体操だけしに来て後の交流が何も無い。もう少し、ゆとりのある事をやってくれれば良いのではないかと。

リーダーと参加者の方の温度差がかなりある。参加者は、横の繋がりのネットを期待されていない。リーダーは、横の繋がりをもちたいと考えている。

質問等ありますか。

(青山委員)

定期的に「すこやか活動支援事業」をやられています。高齢者の健康づくりに活用されてはいかがですか。

(萩原委員)

いろんな関係団体が運営主体で事業をしている。グランドゴルフをすとか、カラオケ大会をすとか、運動会をすとかそれぞれやっているが、そこに参加を60歳以上の方に呼びかけているが、なかなか出てこない。

(青山委員)

主体団体は、どこになるのですか。

(事務局)

役所でいうと健康福祉局。

(事務局)

資料2のP3の老人クラブ活動の下に「すこやか活動」を書きましたが、幸区では、7ヶ所あって、その中で「すこやか活動という制度」を利用して活動しているのが、6地区。すこやか活動推進委員会という仕組みを立ち上げて運営する規定になっている。これは、介護保険の予防資金が控除金として支給される仕組みになっている。

団体としては、町会・民児協・地区社協・老人クラブで構成するものなら介護保険の助成金が見える。

## (2) 区民会議(全体会)への部会検討状況の報告について

### 【事務局から資料説明】

(事務局)

幸区の第1回区民会議を6月7日(木)で調整している。資料2のP1に第1回幸区民会議で部会からの検討状況を報告して、全体会で意見交換をする。こちらの部会にその意見を伝える。また次に行われる2回目の区民会議では、幸区の区民会議の提言としてまとめられるような流れを想定して整理した。

テーマとしては、「健康で生きがいをもてる地域づくり」スタートしたが、健康づくりの問題は、多岐に渡って、いろんな話があったが、この部会の中では、区内の高齢者を対象にした健康づくり・いきがいづくりを行っている団体の活動がさらに広がるように又、健康づくりに対する情報を発信するための提言をまとめていく。

部会での検討経過を話してもらおう。具体的には、地域で行われる高齢者の健康づくりの取組み。高齢者の健康意識に対しての状況の報告と課題。

検討事項1・2として具体的な検討内容の報告を行う。

高齢者の方が健康づくりについてどこから情報を得ているのか。どのような情報を必要としているのか。講演会等を行っているが、沢山の方に参加してもらうためには、どうしたら良いか。3月に幸区が実施した「健康づくりふれあい講演会」アンケート調査で、72名の方の回答を得た。それにより情報の入手先やどのような情報を望んでいるのかがわかった。

区民が関係団体と企画する講演会・地域でウォーキング活動をやられていたりとか、文化的な活動として歴史の散策をされている活動もある。健康と連携した健康づくりの活動もある。まちづくり推進委員の方で歴史の散策コースを作成した。そういうものと併せて、歴史の散策コースをウォーキングする取組みなどの検討が考えられる。

(末兼副部長)

検討事項の1・2を区民会議で図って、出された意見をこの部会で最終的な提言という形でまとめていくために検討事項1・2がこれでよいのかどうか。

検討1「身近な地域での健康維持・増進の取組」についてこれでよいか。もう一つのテーマとして「心のケア・脳トレ・認知症防止」についてというのが抜けていると思う。提言として絞り込んだものが良いのか。

(葉山委員)

心のケアは大事な問題でだが、そこまで広げるのか。

(末兼副部長)

心のケアになると認知症防止とか。解決に向けた取組の中にそういう団体の方にも入ってもらってやっていくのか。

(綱川委員)

歴史の散策も心のケアも入ると思う。

(葉山委員)

A・B・C・Dの団体のリーダーを集めて、クラブを作ってここから情報発信をする。それぞれでやっても全体の情報発信ができないから、こういう形の情報発信をするのはいいことだと思う。心のケアまでいくと広範囲な問題になってしまう。とりあえず健康づくりでその後に講演会をやれば、何らかの心のケアになる。

(末兼副部長)

歴史の散策コースマップをみるといろんな形でやっている。老人の対応をするのにも非常に良い。

この中に引っ張りこんでいけるような小冊子。今日は、ここでこんなことをやっているというような情報が入っているようなものをつくりたい。

老人クラブの施設(管理者と利用状況、会費、収容人数)を入れてもらって、空いていれば、誰でも使えるように区民会議に提案する。

(小林委員)

修正してもらいたい箇所がある。地域での高齢者の健康づくり関係のところ、「すこやか活動」の実施団体は、地区社協が中心にやっている。その中で、老人いこいの家の実施団体は幸区の社会福祉協議会で、老人いこいの家には運営委員会があって、施設の運営と管理を行っている。すこやか活動推進委員会の中心になっているのは、地区社協で、その中に町会とか民生委員児童委員協議会とか老人クラブ等が含まれている。

(末兼副部長)

具体的に参加されているメンバー。どうやって人を集めていくか。

(小林委員)

すこやか活動を地区社協でまとめていない。

(末兼副部長)

各部署で縦割りになっている。これをできたら横割りで、みんなが分かるような参加できる形に区民会議で提言していきたい。B部会の方がノウハウを持っている人が沢山いるので、提案とか頂けるのではないかと。検討事項1に入れたい項目があれば。

(葉山委員)

皆さん縦割りで一生懸命活動されているけど、とりまとめて情報を発信することがないからそれを区民会議で取り上げていけばいいのではないかと。それぞれの活動内容がわからないのがたくさんある。

(末兼副部長)

各部署を横に統一して活動していく。まとめていく。役所が一つ事務局を設けてもらわないといけない。悪い弊害の出ないセクションを作ってもらおうか。

( 綱川委員 )

見学で各団体をみにいったが、それぞれの団体が一生懸命活動していて、区民会議として横の繋がりをだして、情報を発信することは理想的なことだと思う。ただ、実際やられている方達が和気藹々とやっているの、楽しく会を継続してってもらえばいいわけで、情報も老人クラブでも年2回発行しています。会をやられている方達が、人数を増やしたいとか横の繋がりを持ちたいねとかになれば、情報発信をみてやると思う。

( 末兼副部長 )

参加されている方との温度差。リーダーとして会をやっている方は、横の繋がりをもっと持ちたい。実際にその地区で会に参加している人数は、1/5 位しかいない。活動する場所があって、曜日を変えれば、もっと参加できる人が増えるかもしれないので、情報を発信しようかと。

( 綱川委員 )

その温度差ですが、最近感じるのだが私たちの団体も高齢者ばかり。高齢の夫婦になってくるとそとに出たい気持ちはあるが、なかなか会に参加することができない状況にある。出やすいように毎回プログラムを決めているが、なかなか参加する勇気がない。毎回日程を教えてなるべくでてもらうように声をかけているが難しい。

( 末兼副部長 )

なかなか、出て来れない方を会に参加させた成功例は、最初にチラシを配って、いついつにありますよというものを持って行って、当日になったらありますよと連絡する。時間になったら一緒に行きませんかと誘った。リーダーとして誘いかけをする。

検討事項その2の介護予防の情報発信。冊子をつくるとか会を作ってやるとか、事務局の方から説明いただいたが、健康応援づくりとしての事務局と団体(実行部隊)を作っていかなければならないのではないかと。

( 葉山委員 )

前回の4月19日の時に終わりの方で、ウォーキングに絞って(体操にも繋がるから)それを提言していくと思ったが、どうだったか。

( 末兼副部長 )

会議全体の取組として、地域でのウォーキング・散策活動という形で提言。ウォーキングの指導者を幸区内で決めて、各地域・地域で行う。ウォーキングを絡めて、健康づくりの講演会とか、イベントみたいな形に提案して行ってそれを実行するための事務局をつくっていく。健康づくりの介護予防にウォーキングが良いという話が出て、これを区全体に進めていこうということにな

れば、委員会を作って、こういう動きをしたほうがいいのではないか。この部会の報告を検討事項1・2の発表者を決めて頂いて、ある程度煮詰めてもらう。

ウォーキングをメインにしていくと言っても主催団体になるのか、どのように参加者を集めるのが問題になると思うのだが。

(葉山委員)

ウォーキングの指導者を幸区の中で決めて、たとえば地区ごとに決めるなど考えられるのではないか。

健康づくりといってもメニューがたくさんあって難しい。だから、ウォーキングで絞るというのが前回の話し合いの結果だと思うが。それが検討事項2ということか。

(末兼副部長)

そのように考えている。ウォーキングを絡めた健康づくりの講演会とか、そのための受け皿をつくる。そういったような提案に持っていったらどうか。

それとも何かに、たとえばウォーキングに絞った方が良いか。

(小林委員)

その方がわかりやすい。

(末兼副部長)

受け皿団体を考えなければならないがどうするか。たとえば社協、民協、老人クラブなりに頼むのか。人を集めて組織をつくるのか。

(葉山委員)

それなら一つに絞らないで、幸区健康クラブみたいなものをつくることを提案したらどうか。区民会議は実行部隊ではないのでね。

今日は発表者を決めないといけないのか。

(末兼副部長)

健康のためにウォーキングが非常に良いということで、それを進めていこうと思うが、そのためには受け皿団体をつくる必要があるといったようなまとめになると思う。

とりあえず発表者を決めて、内容を煮詰めていかないといけない。

検討事項1を萩原委員、検討事項2を小林委員で決まった。



(末兼副部長)

形的には、自主活動を支援するサポーターを作ることになっているが、もっとこういう風にするればいいのかということがあれば、検討して頂きたい。

意見がある方は、今週末までに小林委員と萩原委員まで。各発表者の方と事務局ともう一度うち合わせして発表する。全体会での意見を持って6月末か7月に部会を開き結論を出す。

(事務局)

部会で20分頂いて、質問が、15分。1人5分ぐらいにまとめる。

(青山委員)

健康づくり応援団というのは、すごく良いと思う。これまでは、横の連携が取れていないから。

(事務局)

確認なのですが、二人の委員に発表してもらうが、全体的なこれまでの流れは、副部長に話をしてもらえるか。資料としては、今まで出てきた資料と数字的なデータを付け加える形で良いか。基本的には、発表される二人の方の指示に基づいてつくる。

(末兼副部長)

検討事項についてたたき台をまとめて、区民会議の資料としてまとめる。足りない部分があれば、事務局に今週中に連絡をしてもらう。

本日は、3名の委員が欠席されているので、資料・その他で意見があるかもしれない。

次の部会の日程ですが、区民会議で出た意見をもう一度練り直して提案できるところまで進める。7月12日(木)6時～